

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600495		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム あすなる		
所在地	苫小牧市字樽前237番地1		
自己評価作成日	平成26年9月26日	評価結果市町村受理日	平成26年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173600495-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173600495-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>あすなる周辺は自然がいっぱいの環境で、四季を感じられる草花や野生動物がいる。          ・花見(紅葉)ドライブや流しそうめん、バーベキュー、クリスマス会など季節の行事を行っている。          ・毎週水曜日に音楽レク(療法)を行っている。          (レクを通してIとIIの入居者との交流も図っている)</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>病院を中核とした医療法人の関連施設が配置された、自然豊かな大きな敷地の中にある平屋建て2ユニットのグループホームである。各ユニットはキッチンと居間を中心に居室などが配置され、また共用部分の天井が高く開放的である。玄関前面に庭があり、各ユニットの居間やスタッフルームにも面している。ゆったりとしたソファが数多く配置され、利用者の居場所を多く確保している。共用部分には行事での写真などが飾られ、家庭的な雰囲気としている。また、トイレや浴室などもプライバシーに配慮した配置となっている。快適な環境のもと、利用者が安心して自由に過ごしており、職員も穏やかにやさしく接している。同一法人の病院が隣接することから医療面の支援が行き届いており、また関連施設の様々な行事にも参加することができる。地域交流の面では、小学校と活発に交流しており、運動会や学芸会を見学したり、一部に利用者と共に参加している。利用者が友人や家族にクリスマスカードや年賀状を作成して郵送する支援を行い、関係者に喜ばれている。介護計画については、職員全員が各利用者の短期目標に対するモニタリングを行い、意見を集約して次の計画を作成するきめ細かな取り組みが行われている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(ユニットIアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念や介護の心得、チームケア目標を掲示し、いつでも確認できる様にして取り組んでいる。	3項目からなる独自の理念の中で「地域との交流を通じ、地域の一員として生活を楽しむ」という文言を掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念として確立している。ユニット毎のケア目標も掲げ、理念とともに共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	樽前町内会や小学校行事の参加などで交流をもっている。	町内会や小学校と活発に交流しており、小学校の運動会や学芸会を見学したり、一部に参加している。事業所が医療法人を中心とした大きな敷地内にあり、法人全体の夏祭りや盆踊りなどの行事を通して、他の施設と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生や研修生の実習の受け入れをしている。ホーム長はサポーター養成講座も開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っており、そこでの意見の反映に努めている。	会議は2か月毎に開催され、市役所や地域包括支援センター職員、町内会長、複数の家族の参加を得て、地域交流や防災、外部評価、行事予定などのテーマで話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議・グループホーム連絡会に参加し、市の介護保険課と情報交換し、協力関係を築いている。	運営推進会議に市や地域包括支援センターの参加があり、情報提供を受けている。ホーム長が認知症サポーター養成講座の講師として市内で活動し、事業所でもこの秋に講座の開催を予定している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の開催、研修や勉強会に参加し、伝達講習を行っている。スタッフ間で情報の共有や理解に努めている。	禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束ゼロの手引きを用意し、身体拘束廃止委員会に全職員が参加して年に1回程度勉強会を行い、理解を深めている。玄関は日中は施錠しておらず、外出があればセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人の研修を受け、スタッフ間で確認し、防止に努めている。		

グループホームあすなる

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職のキャリアパス研修で学ぶ機会があり、参加している。 成年後見制度などの利用についての相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長より十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望は面会時に聴取し、玄関には御意見箱を設置している。 行事の時にはアンケートに記入して頂き、運営に反映させている。	家族の来訪時や電話をした際に意見を聞き、内容を申し送りノートで共有している。行事の際には家族アンケートも行っている。2か月毎に個人ごとの様子も加えた「あすなるだより」を発行し家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見交換を行い、月1回のスタッフ会議やカンファレンス時などに深く話し合いをする機会をもっている。	毎月ユニット毎の会議を開催し、職員の意見を引き出すように工夫している。職員の年間目標に対する自己評価をもとに職員とホーム長が年1回面談している。職員は行事を分担したり、献立や装飾、お便り作りを担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体法人のキャリアパス研修や介護基本研修があり、各自が向上心を持って働ける様に環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の研修があり、その研修を経てステップアップする仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会・苫小牧グループホーム連絡会に参加、活動している。 関連法人のグループホームとのスタッフ間交流をもっている。		

グループホームあすなろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族・関係施設などから情報を頂いてから本人との面談をもっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望や意向を聴取し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いから、どのようなことが必要かを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること・好きなことを見極め、一緒にしたり、見守りし、共感し合いやりがいに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに本人の様子を伝え、家族の思いや心配などを聴いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外へ出向いていくことが難しいが、本人の行きたい場所や会いたい人がいることを家族に伝え、電話をしたりいつでも面会に来られる様関係継続に努めている。	友人や知人が来訪する方がおり、利用者が友人や家族にクリスマスカードや年賀状を作成して郵送する支援も行っている。隣接する病院の喫茶店での茶話会を定期的に行っている。また、家族の支援で行きつけの美容院や寿司店に通う方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事、レクなどで関わりがもてる様に心掛けている。		

グループホームあすなろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居になっていても、お見舞いを兼ねて会いに行くことをしている。 行事を開いて下さる家族もあり、交流している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向は記録に残し、センター方式を利用し1人ひとりに合わせた対応をしている。	思いや意向を表出できる方は少ないが、難しい方の場合も表情やしぐさなどをもとに意向を把握している。センター方式のアセスメントシートを定期的に追加記入し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や関係施設などから情報をもらい、把握できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録し、スタッフ間で共有し、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向を聴取し、モニタリングシートを作成した上でカンファレンスをし、ケアプランに反映させている。	介護計画は4か月毎に見直ししている。職員全員が短期目標に対するモニタリングを行い、意見を集約して次の計画を作成している。日々の記録も介護目標を意識して記録しているが、目標に対する内容などの記入が明確となっていない。	日々の記録について、介護目標に対するサービスの内容やその際の利用者の様子が分かりやすく記されるよう、記入方法の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をアセスメントシートに記録し、カンファレンスなどで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が難しい場合はスタッフが対応している(病院受診など)。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設や医療機関の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連協力医療機関のかかりつけ医の受診など、希望により支援している。	同一法人の病院が隣接しており、いつでも受診できる状況にある。その他の通院は原則家族対応としているが、必要に応じて事業所で送迎し、受診内容を記録して情報を共有している。	

グループホームあすなろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長や母胎病院の当直責任者に報告・相談し、受診ができる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	口答での情報交換と介護添書を利用し、情報交換を行っている。 入院中はお見舞いへもを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、同意書ももらっている。 早い段階で面談し、医療機関との連携により、話し合いの時には同席している。	利用開始時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を説明して同意の署名を得ている。家族や医療機関と相談し、最終的には同一法人の病院に移るケースがほとんどで、過去に事業所での看取りは経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを設置し、急変時の手順をスタッフに伝えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月に母体法人と合同の防災・防火訓練、避難訓練を実施している。 夜間想定訓練もしている。	法人全体で年1回、事業所独自で年1回の避難訓練を行っており、敷地内の関連施設との協力体制も整っている。備蓄品は隣接する病院ですべて用意している。一方、職員の定期的な救急救命訓練の受講は十分といえない。	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴し、受け止めることを心掛け、1人ひとりに合った対応をしている。 プライバシーでは他者の記録にはイニシャル表記をしている。	新人研修などで接遇を学んでいる。職員の言葉かけは、穏やかで優しい口調である。フロアで記録をする時は、当日の介護記録のシートのみを使い、個人ファイルは持ち出さないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側の都合の声かけにならない様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の職員の数人体制によって慌ただしくなってしまうことがあるが、対応時には1人ひとりのペースに合わせ、急かさぬ様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人になじんだ整容に心掛けている。		

グループホームあすなる

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの不得意な献立は代替食を提供し、誕生日には本人の好きなものを献立にしている。	「あすなる農園」で収穫した夏野菜を楽しむこともあり、男性職員が台所に立つ時は、心配して一緒に調理したり、絹さやのすじ取りやもやしのひげ根取りをしている。下膳や食器洗い、テーブル拭きなどをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた食事形態や代替を行っており、食事量の少ない方などには栄養補助ドリンクを利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて、1人ひとりに合った支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントシートの日々の記録によって排泄パターン・状態を把握し、さりげなくトイレ誘導を心掛けている。	失敗を防ぎ、自立支援をするために「生活アセスメントシート」に排泄の記録をし、その記録を確認しながら職員の判断で随時、言葉かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫(乳製品・野菜の提供)や腹部マッサージなどを行い、下剤に頼り切らない様取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	天然温泉を使用しており、それを楽しみにされている方もいる。 できるだけ週2回以上入浴できる様にし、本人に合わせた湯の温度にしている。	毎日、午後に天然温泉の湯を岩風呂風の浴槽に満たし、希望に応じて入浴できるようにしている。浴室には、窓がありシャワーも2つあるので、ゆっくりと入浴できる環境である。拒否される時は、その理由を考えその方の思いを把握し、学びを深めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子・状況に応じて、日々の習慣に合わせた対応を心掛けている。 不眠時には一緒に過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録のファイルに処方録を綴じ、お薬手帳も管理している。 変更時は特記事項へ記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人にできる作業・好きなことなどで役割や気分転換ができる様支援している。		

グループホームあすなろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ねて散歩・季節に合わせた行事の外出(ドライブなど)など、本人の希望にできるだけ沿える様に支援している。	日常的に散歩をすることは無いが、家族が来訪した時に散歩に出かけている。毎朝のゴミ出しや猫の餌やりに出ている。5月から10月までは毎月、お花見やバーベキュー、小学校の学芸会などに出かけている。来年は、認知症の人や家族、支援者がタスキリレーを行う「RUN伴」に参加したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は家族管理だが、小金程度の管理ができる方には所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかけたい時には支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室に温湿度計を設置し、その都度チェックし、冷暖房やカーテンで調整している。 居間の窓から草花など季節を感じられる様にしている。	山小屋風の建物であり、吹き抜けの天井と天窓がある広々とした共用空間である。シャンデリアの柔らかな光の下、対面式の台所を中心に食堂、居間、掘り炬のある和室が一つのフロアーに設けられている。暦や外出時の写真などを壁に貼り、紅葉の飾り付けをして生活感や季節感を採り入れる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に椅子やソファを多く設置し、その日の気分に合った居場所作りを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が馴染んだ好みの品々を配置して頂いている。	全居室に出窓があり、10畳ほどの広さがある。キャビネットと洗面所が備えられており、畳みの居室も1室ある。冷蔵庫やベッド、テレビなどの家財を持ち込んだり、時刻表やカレンダー、家族の写真や趣味の作品を飾り、居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・居間には手すりを多く設置しており、安全に安心して過ごせる様にしている。 居室の扉横にネームプレートを設置し、わかりやすい様にしている。		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600495		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム あすなる		
所在地	苫小牧市字樽前237番地1		
自己評価作成日	平成26年9月26日	評価結果市町村受理日	平成26年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が多く、野菜・花作りを楽しめている。</li> <li>・四季折々の行事(花見・夏を楽しむ会・流しそうめん・敬老会・クリスマス会)</li> <li>・週1回の音楽レク</li> <li>・樽前小学校との交流(運動会・学芸会・子供みこしなど)</li> <li>・認知症サポーター養成講座の開催</li> <li>・キャリアパス研修への参加(法人主催)によってスタッフのスキルアップにつながっている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173600495-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0173600495-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年10月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ユニットII アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅰ.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念・介護心得・ケア目標をスタッフルームに掲示し、スタッフ間で共有している。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	樽前町内会との連携により、小学校の行事に参加し、交流している。 今後認知症サポーター養成講座の開催を予定している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催や看護学校生の実習インターンシップの受け入れを行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は夜間想定避難訓練を実施し、消防署員にも参加してもらった。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼やGH連絡会研修などに参加することで協力を得ている。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回スタッフ研修を行い、確認し、玄関の施錠は防犯の意味で夜間(19:00～翌7:00)のみ行っている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ研修を行い、防止に努めている。			

グループホームあすなろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、家族から相談を受けた際に支援できる様努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容の変更や改定があった際には、必ず説明し、署名・捺印をもらっている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 行事の際にはアンケート調査を行ったり、年1回家族交流会を開き、意見交換を行っている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を開き、意見交換を行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での自己評価(個人)やキャリアパス研修の実施により、モチベーションを上げられる様整備されている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での職種別の自己評価やキャリアパス研修、外部の研修などに積極的に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症GH協議会・苫小牧GH連絡会に加入しており、研修などに参加したり、実践者研修・リーダー研修の実習受け入れにより交流している。			

グループホームあすなろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、本人や家族の想いを伺い、少しでも安心してもらえる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居予約・見学の段階から困り事・要望を聞き、少しでも安心してもらえる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から状態を聞いた上で、すぐに入居の必要性があるかも含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のアセスメントシートの記録により、本人の状態を知った上でケアに努め、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはできるだけ日常の様子を伝え、状態を知ってもらったり、面会が少ない方には電話連絡を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来られたり、電話をかけられる様な支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶やおやつの時間など居間で一緒に過ごせる時間を作り、交流の場を設けている。		

グループホームあすなろ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも家族が訪ねてこられたり、ボランティアで来られている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から把握する様に努めている。困難な場合はカンファレンスを行い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聴き取りを行っているが、日常会話の中から得ることもあり、記録し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントシートの記録により把握し、勤務交代時に申し送りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月後のモニタリング、4ヶ月毎にプラン更新し、その都度全員で話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のアセスメントシートの記録と交代時の申し送り、スタッフ連絡ノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は家族対応しているが、本人の待ち時間・負担を考慮し、受付・支払い等は家族に依頼し、受診介助はスタッフで行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の施設や医療機関の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を希望される方もいるが、殆どの方が受診困難(病院が遠く、待ち時間が長い)なため、協力医療機関へ変更されている。		

グループホームあすなる

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が准看護師であり、日常の健康管理を行っているが、休日・夜間の急変時には協力医療機関との連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には管理者が付き添い、病院関係者との情報交換を行い、1日も早い退院に向けて話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しているが、本人の状態が変化した場合には家族と相談しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルの設置と応急処置の訓練、連絡体制の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での防災訓練への参加やホーム単独での避難訓練を実施している。 近隣に民家が無く、地域の協力は困難な為、隣接の病院が協力体制を取っている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ・入浴などの声かけは他者に聞えない様にし、子供扱いする様な言葉使いはしない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に飲みたいものを選んだり、入浴希望の有無など、できるだけ働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前のお茶の時間などに、1日の予定などを会話から引き出せる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床や入浴時に服装を一緒に決めたり、汚れがあった時はさりげない声かけで着替ええる様に支援している。 散髪は訪問理容を利用している。		

グループホームあすなる

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは簡単な下ごしらえ程度しか参加されず、テーブル拭き・箸やお茶配り・下膳・食器洗い・拭きなどの作業はされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが献立をたてているが、定期的に栄養士にチェックしてもらい、アドバイスを受けている。状態によりミキサー食や栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態によりうがい・歯磨きができない方もおり、できるだけ就寝前に口腔清拭や歯磨きの声かけや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントシートの活用により排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレでの排泄をできる様に声かけ、トイレ誘いなど支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や根菜類などを献立に取り入れたり、排泄時に腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回は入浴できる様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	殆どの入居者が眠剤を使用せずに眠れている。眠れない時は温かい牛乳を勧めたり、寄り添い一緒に過ごす様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースファイルに付けており、いつでも確認できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物・手芸・文化祭に向けての作品作り・猫の餌やり・世話・喫煙・飲酒など楽しめる様に支援している。		

グループホームあすなる

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出は殆ど無いが、毎朝のゴミ出し・野菜や花の手入れ・散歩・猫の餌やりなどで戸外へは本人の希望時にいつでも出られている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常にお金を使用する場面が殆ど無いが、行事などで外出した時に買物を楽しめる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルーム内の電話はいつでも使用できる様になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は全面バリアフリーになっており、トイレ・浴室・居間には手すりを設置している。 毎日温度・湿度チェックし、調節している。 居間の壁面には行事や日常生活の写真を貼り会話のきっかけとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席・テレビ前ソファ・談話コーナー・台所前とソファをいくつも置き、その時の状態により過ごせる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地の良い空間を作る工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面バリアフリー、居間・トイレ・浴室には手すりを設置している。		



目標達成計画

事業所名 グループホームあすなろ  
作成日: 平成 26年 11月 11日  
市町村受理日: 平成 26年 11月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画の見直しや2ヵ月毎にスタッフ全員でモニタリングを行い、次の計画を作成しているが、日々の記録で目標に対する内容などの記入が明確になっていない。	・誰が見ても分かり易いように記入方法を工夫する。	・短期目標と介護内容に番号を振り、実施した際に特記事項欄に記入し、実施された事が一目で分かる様にする。	12月より4ヵ月
2	35	以前はスタッフ全員が普通救命の研修を受講していたが最近では定期的な受講が出来ていない。	・スタッフ全員が普通救命講習を受講し、急変時に慌てず対応ができるようにする。	・受講経験のないスタッフから随時受講する。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。